

都道府県・ 指定都市番号	30	都道府県・ 指定都市名	和歌山県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	福祉
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○生徒の主体的な学習を通して思考力，判断力，表現力等を育成する指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	わかやまけんりつありだちゅうおうこうとうがっこう 和歌山県立有田中央高等学校（352 人）				
所在地（電話番号）	〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 459 （ 電話 0737-52-4340 FAX 0737-52-6749 ）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.aridachuo-h.wakayama-c.ed.jp				
研究のキーワード	創意工夫の 5 観点 言語活動 学習ノート 予習・復習 主体的な学習				
研究成果のポイント	○基礎・基本の知識の定着と思考力・判断力・表現力等の育成に視点をおいたワークシート，授業の予習・復習を行い，主体的に学習に取り組むための学習ノートの作成 ○特別支援教育の観点を取り入れた指導方法の工夫 ○思考力・判断力・表現力等を育成するための評価方法及び評価規準の検討				

1 研究主題等

（1）研究主題

生徒の思考力，判断力，表現力等を育成する指導の在り方

～福祉科目の特性に留意し，言語活動を活用した授業改善の取組～

（2）研究主題設定の理由

平成 26・27 年度は，教育課程研究センター指定校事業において，『社会福祉基礎』の指導と評価の一体化を目指した評価計画を作成し，課題解決型の授業及びそれを適切に把握するための観点別の評価方法や評価基準について研究できた。平成 28・29 年度は，『こころとからだの理解』及び『生活支援技術（医療的ケア）』について，生徒の授業に対する意欲の向上を図り，思考力，判断力，表現力等を育成するための教材の作成と具体的な指導方法についてまとめた言語活動事例集を作成することができた。

今年度は，これまでの研究成果を踏まえ，『社会福祉基礎』及び『こころとからだの理解』において，生徒の主体的な学習態度を育み，言語活動の充実を図るための学習指導や学力の 3 要素に基づいた学習評価の在り方について研究している。特に『社会福祉基礎』では，総合学科 1 学年の全ての生徒が履修するため，本校で取り組んでいる特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりの一環として実践している。

（3）研究体制

- ・校長，教頭，授業担当で教育課程研究指定校事業推進委員会を構成し，研究の方向性や効果を検証するために，会議を月に 1 回開催する。
- ・校内の授業改善ワーキンググループと連携を図る。
- ・和歌山県教育委員会県立学校教育課担当指導主事より指導・助言を受ける機会を設ける。

(4) 1年間の主な取組

平成30年度	<ul style="list-style-type: none">・『社会福祉基礎』及び『こころとからだの理解』の学習内容及び観点別評価の研究・『社会福祉基礎』及び『こころとからだの理解』のワークシート等の作成と活用・『こころとからだの理解』の学習ノートの作成と活用・千葉県立松戸向陽高等学校訪問（6月29日）・和歌山県立有田中央高等学校指定校訪問（研究授業・研究協議）（10月26日）・三重県立伊賀白鳳高等学校訪問（12月11日）・平成30年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会（2月5日）
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

本校では、従前より特別支援教育の観点を取り入れ、ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備やICTの活用を積極的に行い、全ての教員が授業改善に取り組んでいる。生徒が授業に興味を持ち、前向きに取り組めることが最も重要であると考え、校内に「授業改善ワーキンググループ」を置き、生徒の実態に即した授業改善を行っている。

いずれの教科の授業においても「創意工夫の5観点」（図1）

を取り入れ、授業のけじめを付け、分かりやすい説明や視覚的な教材に留意し、多様な学習活動に取り組むことで、生徒が興味関心を持ち、前向きに取り組める授業を目指している。

今年度から教育課程の変更に伴い新しくスタートした、1年生全員が履修する『社会福祉基礎』の授業では、生徒が「福祉」を身近なものとして捉え、興味・関心を持って学び、社会福祉の在り方について考察できることを目標にしている。また、これまで言語活動の充実に取り組んできた『こころとからだの理解』の授業では、授業の構造化を通して生徒の主体的な学びを支援することを目標に、教材の作成及び言語活動の充実に努めた。

(2) 具体的な研究活動

① 『社会福祉基礎』の授業研究

『社会福祉基礎』は1年生全員が2単位を履修している。少子高齢化や地域の課題、社会福祉の歴史とそれを踏まえた理念、人間関係の基本等について学ぶことで、基本的な社会福祉の知識を身に付け、自分の生き方や在り方を考えることを目指している。

福祉科と公民科の教員で単元を分担しており、「授業の見通しを持たせる」、「スライドを使って視覚的に伝える」、「様々な活動を取り入れる」等の「授業の創意工夫の5観点」に沿った授業を展開している。授業では、興味を持って主体的に取り組めるよう、ニュースやホームページを活用して、身近な課題を設定し、生活と関連させて学ぶことに留意した。公民科の教員が担当する「社会福祉の歴史」に関する学習では、歴史上の人物の生き方や考え方を深め、その人物から福祉の理念や意義を学ぶよう留意し、生徒の興味・関心を高めた。生徒に対する授業アンケートでは、肯定的な評価が多く、おおむね良好な結果となった。

興味を持って主体的に取り組めるよう、ニュースやホームページを活用して、身近な課題を設定し、生活と関連させて学ぶことに留意した。公民科の教員が担当する「社会福祉の歴史」に関する学習では、歴史上の人物の生き方や考え方を深め、その人物から福祉の理念や意義を学ぶよう留意し、生徒の興味・関心を高めた。生徒に対する授業アンケートでは、肯定的な評価が多く、おおむね良好な結果となった。



図2：1年生の社会福祉基礎の授業の様子

創意工夫の5観点

- ① 授業開始時に学習への見通しを持たせる工夫
- ② 分かりやすい言葉（説明・発問）と視覚的な表示への工夫
- ③ 生徒同士の学び合いを活かすための工夫
- ④ 学習場面の転換や多様な学習活動への工夫
- ⑤ 学習環境（規律とけじめのある）への工夫

図1：創意工夫の5観点

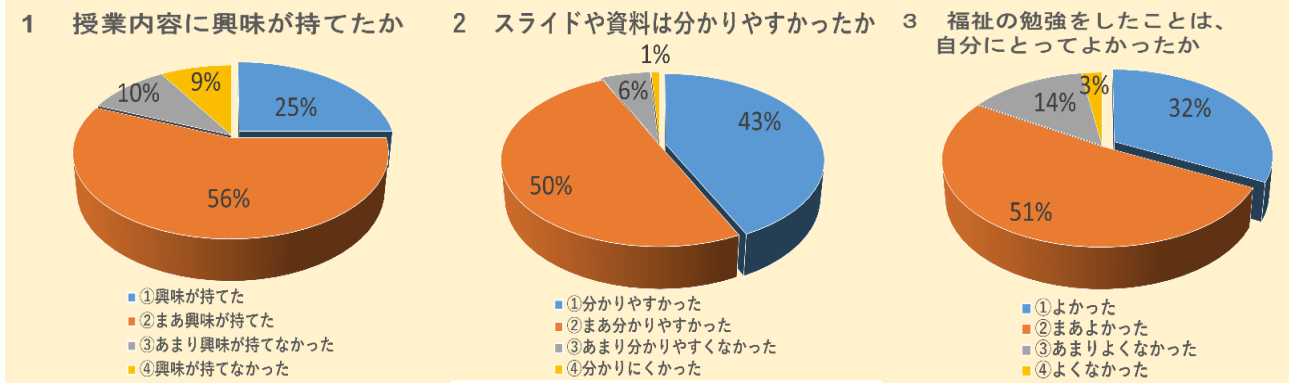


図3：授業アンケート結果

- ・自分たちの生活の中で役に立つことがある。
 - ・大人になる時に知っておきたい事を学べた。
 - ・差別がよくないことだと改めて知った。
 - ・福祉の歴史を知ることで今までどういうふうに関係が克服され、今があるのか分かった。
 - ・もし自分が困っている人のそばにいたら、迷わずに助けたいと思います。
 - ・障害者と接するときの考え方についての授業が役に立ったと思う。
 - ・障害者差別や偏見を持つことはいけないとはっきり分かったこと。
 - ・国が障害の持った人に対して、どのように対応しているか学べてよかった。
- 社会福祉基礎を学んでよかったこと（アンケート結果より抜粋）

今年度は、生徒が興味を持てる授業を行うことに留意したが、教員主導の授業展開が多かったように思われるため、今後はよりいっそう、生徒が授業で学んだ専門的な知識を活用して、思考力・判断力・表現力等の育成が図れるような課題について検討し、活動形態を工夫することが必要であると考えます。

②『こことからだの理解』における主体的な学習態度の育成

『こことからだの理解』では、昨年度まで、アクティブラーニング型授業を目指し、1時間の授業の中で言語活動のための課題を設け、生徒が自分の意見を持った上で意見交換や発表等のできるようなワークシートを作成してきた。さらに、今年度は、生徒が主体的に授業に取り組むため、予習と復習に活用できる学習ノートを作成した。

第9章 泌尿器系のしくみ No.2.6

予習

1 腎臓

腎臓は(① 腰部)部のやや上方、(② 腹膜)の(③ 後)方にある左右1個ずつある大きなソラメの形をした臓器である。内側の中央部に(④ 腎門)があり、(⑤ 腎動脈)、(⑥ 腎静脈)、(⑦ 尿管)などが出ている。

(⑧ 皮質)と(⑨ 髄質)に分かれ、(⑩ 髄質)は8~16個の(⑪ 腎柱)を形成する。さらに内側は(⑫ 腎杯)、(⑬ 腎盂)になり(⑭ 尿管)になる。腎臓の(⑮ 皮質)には毛細血管が球状に集まってできた(⑯ 糸球体)とそれを包む(⑰ Bowman's 嚢)で構成された(⑱ 腎小体 (マルピギー小体))がある。腎小体は(⑲ 尿管)につながり、(⑳ ネフロン (腎単位))とよばれる腎臓の機能的・構造的な最小単位を構成している。(㉑ ネフロン)は、尿を生成する機能を持ち、一つの腎臓に約(㉒ 100万)個ある。(㉓ 腎髓質)

(㉔ 糸球体)の血液は、(㉕ 糸球体濾過液) (㉖ 腎皮質)で濾過され(㉗ 原尿)が生成され、(㉘ 尿管)内に入るが、そこでブドウ糖などの必要な成分が毛細血管に(㉙ 再吸収)され、それ以外(㉚ 腎静脈) (㉛ 腎杯) (㉜ 尿管)に集まり尿となる。

(㉝ ホルモン) (㉞ 糸球体) (㉟ 糸球体) (㊱ 腎小体) (㊲ ホルモン) (㊳ 尿管) (㊴ 尿管)

復習

課題1 腎臓のはたらきを書こう。

水分バランスの調整 老廃物の排泄 電解質のバランス調整
酸塩基平衡の調整 ホルモンの分泌

課題2 尿がつくられるしくみをまとめよう。

例 腎臓に血液が流入し、糸球体の血液が糸球体濾過液で濾過され、原尿が生成(約160l/日)される。原尿は、尿管を流れる間に約99%再吸収され残りの1%が腎盂に集まり、尿が作られる。(約1.6l/日)

練習問題

① 右の腎臓のほうが左の腎臓に比べ低い位置にあるのは何が関係しているためか。 ① (肝臓)

② 腎臓から分泌される血圧を調節するホルモンを答えよ。 ② (レニン)

③ 腎臓に血液を流している動脈の名称を答えよ。 ③ (腎動脈)

④ ブドウ糖などの必要な成分が再吸収される部位を答えよ。 ④ (尿管)

⑤ 原尿は1日にどれくらい生成されるか答えよ。 ⑤ (約160l)

⑥ 正常な尿の酸塩基平衡を答えよ。 ⑥ (弱酸性)

⑦ 1日の尿量が400ml以下の状態を何というか。 ⑦ (多尿)

第1編 ところとからだの基礎的理解 第2章 ところとからだのしくみの理解

図4：学習ノート（こことからだの基礎的理解）

今年度は、生徒が主体的に授業に取り組むため、予習と復習に活用できる学習ノートを作成した。予習の内容は、教科書の穴埋め形式とし、教科書に記載されていない部分の参考資料等も掲

載した。

事前に予習を行うことで、基礎的な知識を学んだ上で、授業に関心を持って主体的に取り組めるようにした。また、授業のワークシートは、これまでの穴埋め式ではなく、ノート形式で板書を行い、理解を深めた上で、言語活動に関する課題に取り組めるようにした。さらに、学習ノートには演習

問題を掲載し、復習にも活用している。学習ノートについては、8割程度の生徒が予習や定期考査前の学習等に活用できており、その結果、授業における課題解決学習も質的に向上し、以前より話し合い活動が活発化してきている。

今後の課題は、全員が学習ノートを活用できるような手立てを行ったうえで、思考力・判断力・表現力等の育成に関する課題の評価基準を明確化し、生徒の学習意欲の向上を図ることであると考える。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 『社会福祉基礎』の授業において、生徒が興味を持って授業に取り組める教材の作成を行うことができた。
- 『こころとからだの理解』の授業において、生徒が主体的に授業に取り組めるよう、学習ノートを作成し、活用した。予習、授業、復習という学習の流れをつくり、基礎的な知識の定着を図り、課題解決型学習の質的な向上ができた。
- 全員が積極的に予習や復習に取り組めるよう、個別的に支援を行うとともに、学習活動と評価との関係を明らかにすることで、自らの目標が設定できる必要がある。
- ワークシートの観点別評価について、評価基準を作成し、評価と指導の一体化に向けた評価の在り方について検討を進める必要がある。
- 専門的な知識を活用して、思考力・判断力・表現力等の育成が図れるような課題を設定し、活動形態を工夫することが必要である。

4 今後の取組

いずれの科目においても、興味・関心を持って取り組むなかで専門的な知識の理解ができるよう、さらに、学習内容の検討や教材の開発を行う。また、生徒が主体的に取り組む授業づくりとして、新聞記事等を活用して、生徒に興味のある記事や新しい情報を言語活動充実のために活用したいと考えている。また、生徒の記述した内容については、あらかじめ作成しておいた評価基準を活用し、観点別評価を行っていく。また、授業のテーマを絞り、最後にそのねらいに沿った振り返りを行い、達成度を評価するという授業形態を定着させたい。



図5：ワークシート（認知症の理解）